



2月6日に市総合運動公園体育館で行われた開会式。全国41都道府県から選手や監督、高校生をはじめとする役員など約1,300人が出席し、熱戦に向け健闘を誓った

◎Special Issue

インターハイの軌跡

2月6日から10日まで八幡平市を舞台に開催された第60回全国高等学校スキー大会(スキーインターハイ)。「雪原に馳せる情熱 イーハトーヴの華となれ」をスローガンに、全国から雪の精鋭たちが八幡平市を訪れ、4競技12種目で熱戦を繰り広げた。「スキーの聖地」八幡平市の5日間を振り返る。

雪の精鋭市に集結

力強く選手宣誓

開会式で「自己の目標と限界に挑戦し、感謝の気持ちを忘れず競技する」と選手宣誓する県選手団主将の田中文博選手（盛岡農業3年）



学校の名譽懸け

唯一の団体種目であるクロスカントリーリレー。学校の威信を懸け、一斉にスタートする選手たち



八幡平市の空へ

時速約80キロのスピードに乗り、勢い良く飛び出すスペシャルジャンプ・コンバインドの選手



緊張のスタート

降りしきる雪の中、コースに飛び出す男子回転の選手



選手団に大人気

開会式会場に登場した「岩鷲護神ハチマンタイラー」は精鋭の心をもつかんだ



感謝を胸に力走

女子クロスカントリー2種目に出場した古川優里選手（盛岡女子3年）。たった一人で練習を積み重ね、最初で最後の出場を遂げた



勝利の雄たけび

コンバインド・2位と1秒1の接戦を制し優勝した堀米翔大選手（長野・飯山1年）



県勢唯一の入賞

女子スラロームで6位に入り、県選手入賞ゼロの危機を救った松原美幸選手（電石3年）



14年ぶり3度目

女子学校対抗で優勝した花輪高校（秋田、写真前列中央）八幡優化選手（2年、田山中卒）、後列中央）齊藤由美佳選手



将

来、日本のスキー界を背負って立つだろう全国の高校生スキーヤーがここ八幡平市に集結。

第60回全国高等学校スキー大会（スキーインターハイ）は2月6日から10日までの5日間、八幡平市を舞台に開催された。

「雪原に馳せる情熱 イーハトーヴの華になれ」をスローガンに、全国41都道府県から選手など約1400人が参加。100分の1秒が勝負を決めるアルペン。体力の限界に挑むクロスカントリー。時速約80キロで飛び出し、より美しく、より遠くまでアーチを架けるスペシャルジャンプ。クロスカントリーとスペシャルジャンプを合わせた「キング・オブ・スキー」コンバインドー。岩手県では14年ぶりに開催された同大会で、選手たちはこれまでの練習で鍛えた力と技をぶつけ、冬の栄冠を競い合った。

本市出身の選手は18人がエントリー。そのうち、15人が出場（岩手14、秋田11）し、女子クロスカントリーリレー（3×5キロ）で齊藤由美佳選手（秋田・花輪3年、田山中卒）が3位入賞を果たした。

INTERVIEW 全国から来た選手団に聞いた八幡平市



京都府選手団・総監督
村上 修土 さん

むらかみ・しゅうじ
八幡平市を訪れるのは3回目

八幡平市は、競技運営はもちろん、選手たちがイキイキと競技できる場所を提供していただき感謝しています。また来たいですね。

女子CF・RR優勝
安彦のぞみ 選手

あびこ・のぞみ
山形・新庄北3年

八幡平市は食事もおいしく、いい雰囲気ですごくことができました。最後のインターハイで優勝でき、いい思い出になりました。



※CF＝クロスカントリーフリー
RR＝クロスカントリーリレー

全国の「壁」陰しく

※各種目3位までの入賞と県勢の入賞、市の選手の成績(敬称略)

アルペン

■スラローム

▽男子 ①深瀬和志(山形・日大山形) 1分47秒28(55秒21、52秒07) ②光井恭平(岐阜・岐阜第二) 1分47秒97(54秒90、53秒07) ③廣島聖也(北海道・双葉) 1分48秒16(55秒12、53秒04) ④松島裕也(平館) 1分54秒81(58秒49、56秒32) ⑤佐々木佑磨(平館) 2分3秒54(1分3秒87、59秒67)



アルペン女子スラローム、2本ともラップを奪い、優勝した蓮見小奈津選手(南北海道・北海学園札幌)

⑥木村優(平館) 1本目途中棄権▽女子 ①蓮見小奈津(北海道・北海学園札幌) 1分45秒89(51秒34、54秒55) ②川浦あすか(長野・文化女子大付属長野) 1分46秒70(51秒69、55秒01) ③渡邊歩実(新潟・関根学園) 1分49秒00(52秒92、56秒08) ④松原美幸(雫石) 1分50秒21(52秒72、57秒49) ⑤村田夏貴(平館) 1分59秒83(57秒74、1分2秒09) ⑥山崎野乃花(盛岡南) 2分3秒71(59秒10、1分4秒61) 川嶋真央(盛岡中央) 2回目途中棄権

■ジャイアントスラローム

▽男子 ①安藤佑太郎(北海道・北照) 1分50秒04(55秒38、54秒66) ②深瀬和志(山形・日大山形) 1分50秒51(55秒62、54秒89) ③新賢範(北海道・札幌第一) 1分50秒69(55秒50、55秒19) 木村優(平館) 1本目途中棄権、松島裕也(平館) 2本目途中棄権▽女子 ①川浦あすか(長野・文化女子大付属長野) 1分54秒36(56秒27、58秒09) ②押味輝(青森・柴田女子) 1分55秒53(56秒51、59秒02) ③二俣友里(岐阜・飛騨高山) 1分55秒95(56秒88、59秒07)

クロスカントリー

■クラシカル

④山崎野之花(盛岡南) 2分3秒48(1分0秒08、1分3秒40) ⑤村田夏貴(平館) 2分5秒34(1分0秒23、1分5秒11) ⑦川嶋真央(盛岡中央) 2分7秒28(1分1秒86、1分5秒42)

▽男子 ①尾崎光輔(山形・北村山) 25分24秒9 ②石川潤(北海道・旭川大学高) 25分27秒1 ③栗山

大貴(長野・白馬) 25分30秒4 ⑩館卓仁(盛岡農業) 28分59秒6(107) 川野創平(盛岡南) 29分25秒7(114) 三上慧悟(盛岡農業) 30分07秒0▽女子 ①佐藤亜紗美(秋田・花輪) 15分17秒4 ②竹田千夏(新潟・新井) 15分18秒4 ③杉山麻理(秋田・十和田) 15分38秒4 ④古川優里(盛岡女子) 17分31秒6 ⑥中軽米奈実(盛岡南) 18分22秒5

■フリー

▽男子 ①佐藤友樹(新潟・十



クロスカントリー女子5*クラシカルで連覇を果たした佐藤亜紗美選手(秋田・花輪)

コンバインド

0点(76) 85・5 ⑧最長不倒 ②高梨寛大(北海道・北照) 217・0点(77・5 79・5) ③馬淵点(北海道・下川商業) 212・0点(77・5 77) ④畑中啓夢(盛岡農業) 69・0点(43・5 50・5)

(前半ジャンプノーマルヒル 11K点 80) 後半クロスカントリー 10* ①堀米翔大(長野・飯山) (ジャンプ 4100・5点、クロスカントリー 25分8秒8) ②加賀巧哉(秋田・鷹

学校対抗

▽男子 ①旭川大学高(北海道) 37点 ②鷹巣農林(秋田) 31点 ③十日町(新潟) 31点 ▽女子 ①花輪(秋田) 30点 ②新庄北(山形) 24点 ③十和田(秋田) 21点

日町) 39分53秒0 ②石川潤(北海道・旭川大学高) 40分31秒0 ③藤ノ木光(新潟・十日町) 40分58秒8 ④川野創平(盛岡南) 45分05秒5 ⑤館卓仁(盛岡農業) 47分18秒8(109) 外柳剣太(盛岡農業) 48分34秒8▽女子 ①安彦のぞみ(山形・新庄北) 30分41秒4 ②大平麻生(新潟・十日町) 30分45秒5 ③長谷川悠(新潟・十日町総合) 31分42秒3 ④齊藤由美佳(秋田・花輪) 32分21秒4 ⑤古川優里(盛岡女子) 35分57秒1 ⑧中軽米奈実(盛岡南) 39分1秒8

■リレー

▽男子 (4×10*) ①旭川大学高(北海道・藤田佑平、石川謙太郎、石川潤、鈴木貴弘) 1時間49分2秒0 ②十日町(新潟・大島宗則、藤ノ木光、小林洋介、佐藤友樹) 1時間49分2秒1 ③北村山(山形・有路圭佑、尾崎光輔、片倉将也、小沼大樹) 1時間50分44秒3 ④盛岡農業(館卓仁、三上慧悟、外柳剣太ほか1人) 2時間1分6秒9▽女子 (3×5*) ①新庄北(山形・有路杏子、三浦友維、安彦のぞみ) 50分3秒9 ②飯山(長野・高木穂衣、半藤成実、栗田茜) 50分14秒4 ③花輪(秋田・佐藤亜紗美、齊藤由美佳、大澤麻衣子) 50分22秒6 ④盛岡南(中軽米奈実ほか2人) 54分29秒0

スペシャルジャンプ

(ノーマルヒル、K点80) ①清水礼留飛(新潟・新井) 231・



スペシャルジャンプ、悪天候で中断を挟んだ中、集中力を切らず、K点超えのジャンプで逆転優勝し、連覇した清水礼留飛選手(新潟・新井)。八幡平市を訪れたのは初めてで、この大会の前に出場した世界ジュニア選手権で、ともに出場した小林潤志郎選手(東海大、松尾中卒)からジャンプ台の特徴などのアドバイスをもらった成果を見せた

INTERVIEW インターハイに出場して



男子クロスカントリー 館 卓仁 選手

たて・たくみ 盛岡農業3年 松尾中卒

全国とのレベルの差を感じました。最後のインターハイで、1年生のときよりも成長した姿を地元の人に見せることができました。



女子アルペン 村田 夏貴 選手

むらた・なつき 平館3年

1本目に固くなったが、2本目は本来の滑りができました。3年間頑張った成果を出し切ることができ、後悔はありません。

大会支えた人たち



- 1 __ クロスカントリー競技会場のコース整備。競技日は午前4時から作業が行われた
- 2 __ ペンションや民宿は宿泊した選手団に安らぎを与えた（写真＝大阪府のアルペン選手団の宿舎・安比高原・リゾートイン・ミワ）
- 3 __ 道路沿いなどに作られた雪だるまが全国の皆さんを歓迎
- 4 __ 降りしきる雪の中、選手が安全に競技ができるよう、自衛隊や競技役員が作業に取り組んだ
- 5 __ 開会式で選手の入場などを彩った県内高校の吹奏楽部員と合唱部員
- 6 __ 平館高校の生徒37人は各競技会場で放送係などの補助員として活躍
- 7 __ クロスカントリー競技では、地元中学生らが前走を務めコースを試走した



競

技初日の2月7日午前4時、クロスカントリー競技の会場・田山クロスカントリーコース。これから始まる熱戦を前に静けさに包まれる中、圧雪車などによるコース整備が始まった。全ては選手に最高のコンディションで力を出してもらうために。

スキーはほとんどが個人競技だが、一人ではできないスポーツ。今回のスキークイーンターハイでも、市民をはじめ多くの人たちが大会を支えた。開会式では、盛岡三高の視聴覚委員会の生徒が司会を務めたほか、市のプロモーションビデオを制作し上映。市の魅力を全国の高校生に伝えた。また、同校吹奏楽部や合唱部らが選手の入場の演奏などをしたほか、盛岡農業高植物科学科の生徒が育てた鉢植えのシクラメンは、会場に華やかさを加えるなど、同じ高校生スタッフの頑張りが光った。競技会場では、300人を超



選手一人一人に配られた「おもてなしカード」

超える競技役員と陸上自衛隊岩手駐屯地の協力隊130人が円滑な競技運営に奮闘したほか、地元・平館高校の生徒37人も補助員として活躍した。選手団は市内の56カ所のペンション・民宿などに宿泊。それぞれの宿舎では、地元食材を使った料理など、思い思いの歓迎で選手らをサポートした。また、市観光協会は、宿舎から選手への応援メッセージなどを記した「おもてなしカード」（左写真）を作り、選手一人一人に配った。そして、競技会場に足を運び、応援する市民の姿があった。雪だるまを作り、全国の人たちを温かく迎える市民がいた。これらの「結晶」が大会を支えたのは間違いない。

同じ高校生の頑張り願い合唱



開会式に選手の入場などの合唱スタッフで参加

大森みちる

おおもり・みちる
盛岡三高2年
荒屋

同じ高校生として、選手に応援する気持ちが届くよう合唱しました。地元で開催される大きな舞台にこのような形で貢献できてうれしいです。開会式で、全国からたくさんの方が来たのを見て、これから開催してほしいと思いました。

自分も全国の舞台に立ちたい



クロスカントリー競技で前走を務めた

伊藤永大

いとう・えいだい
安代中2年
五日市4区

競技がうまくいき、選手に気持ちよく滑ってもらうことを心掛けました。全国トップレベルの高校生の滑りはきれいでした。とても参考になりました。この経験を生かして、来年は自分が全国中学校スキー大会に出場できるよう頑張りたいです。

人が集まると市も盛り上がる



京都府選手団の宿舎(カントリーハウス theセキ)

関 祐輔

せき・ゆうすけ
34歳
畑1区

選手たちには、地元食材を使った料理を振舞ったほか、自分の家のように過ごしてもらえるようサポートしました。今回のような大会が行われると、全国から人が集まり、市が活気づくとともに、市をPRできる場になると思います。

◎取材を終えて

白熱の5日間が 教えてくれたもの

八幡平市として初開催のスキーインターハイは、5日間の熱戦のうちに幕を閉じた。5日間取材をして感じたことがある。それは「人の力」の素晴らしさと大切さだ。競技初日の2月7日、八幡平市は朝から吹雪の大荒れの天気だった。スペシャルジャンプや女子ジャイアントスラローム競技は、何度か競技を中断する事態に。しかし、そこは昨年の全国中学校スキー大会、おとしの全日本学生スキー選手権と全国大会を経験してきた百戦錬磨の競技役員らが悪天候をもとめせず、無事競技を運営した。八幡平市のスキー大会の競技

運営は全国に胸を張ることができるだろう。

また、大会期間中、全国から多くの人が八幡平市を訪れ、それをさまざまな立場で温かく歓迎した市民には交流が生まれた。会場など取材した先々で市民から聞かれたのは「人がたくさんいることで、市に活気が生まれる」だった。そして、大会が盛り上がる上で欠かせないのは、地元選手活躍。少子化で子どもの数が減っている中、中学校では、冬に特設スキー部として、他の部活動との掛け持ちができたが、それができない高校では、進学時にスキー競技をやめる選手が多いのは事実だ。切磋琢磨する仲間が多いほど、レベルは上がるもの。子どもたちが競技を続ける環境を整えるのももちろん、競技に触れる機会を与えることも必要ではないだろうか。

「雪は天から送られた手紙」とは、雪の結晶の研究で有名な物理学者・中谷宇吉郎氏（1900～1962）が残した言葉。この贈り物があつたからこそできた今大会、八幡平市は「スキーの聖地」であり続けることを改めて教えてくれた気がした5日間だった。

インターハイの軌跡 完

大会最終日の2月10日、クロスカントリー競技会場の田山クロスカントリーコースには、お隣秋田県から米内沢高校の約90人、鷹巣農林高校の約150人の生徒が母校の応援に駆けつけるなど約700人が会場を訪れた。会場は大きな熱気に包まれ、盛り上がりを見せた。